

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 18 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01894

研究課題名(和文) Pacificism. The Pacific as a Space of Resistance and Hybridity

研究課題名(英文) Pacificism. The Pacific as a Space of Resistance and Hybridity

研究代表者

SCHWARZ Thomas (Schwarz, Thomas)

立教大学・文学部・助教

研究者番号：90744300

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、オリエンタリズムからパシフィズムへの焦点の変遷を明らかにした。それは、太平洋の連結を強調する必要性を指摘しながらも、南海研究から環太平洋の議論への批判的研究への拡大を求めるものである。研究成果として『パシフィズム』を出版し、この中で研究代表者は、クックの航海をポストコロニアルな視点から再構築した。Klawitterは啓蒙運動の時期の南海に対する欧州人の熱意について、Jochは文学作品と映画を比較し、強制された日本の開国について調査した。桑川は太平洋地域から出現した怪獣ゴジラについて日米の映画を比較し、豊田はパプアニューギニアの言語であるトクピシンの社会的地位について調査した。

研究成果の概要(英文)：For a volume on Pacificism, published in 2017, Thomas Schwarz reconstructed the historical context of Cook's third voyage from a postcolonial perspective. Arne Klawitter contributed his research on European enthusiasm for the South Seas during the Age of Enlightenment. The article of Markus Joch covers the forced opening of Japan by comparing literature and a movie on the story of the Geisha Okichi. Mario Kumekawa compared Japanese and American movies on the hybrid monster Godzilla from the nuclear Pacific. Yukio Toyoda investigated the status of Tok Pisin, a hybrid link-language of Papua New Guinea. Schwarz did archival research and field work in Micronesia on the rebellion of Pohnpei's Sokehs against German colonial power in 1910/11. The Pacific appears as a discursive construction expedited by European sciences. However, considerable traces of hybridisation and resistance against imperial power have inscribed themselves in the discursive formation of Pacificism.

研究分野：Area studies

キーワード：Pacificism insularity

1. 研究開始当初の背景

太平洋はヨーロッパ人の発明であり、ヨーロッパ人によって名付けられ、ヨーロッパ人によって科学的に位置づけられたものである。バスコ・ヌニェス・デ・バルボアが1513年にスペインの王のために「南海」(mar del Sur)として所有したのに対し、1520年に太平洋に入ったフェルディナンド・マゼラン探検隊に関するアントニオ・ピガフェッタの説明では、mare pacifico (平和の海)という言葉が初めて登場する。その当初から、太平洋はヨーロッパ人の侵入に対して、抵抗の場であった。フィリピンでは1521年にマクタン島でマゼランが殺害された。1779年にハワイのケアラケア湾でクックが死亡したことは、マーシャル・サーリンズとガナナート・オベーセーカラの間に大きな学問的論争を引き起こした。これまで、ヨーロッパの探検家たちは、膨大な量の水が大陸と島を互いに隔離していたと見なしていた。このアプローチに対して、本研究グループは、太平洋の歴史を、文化を結び付け、混成させるプロセスと見なすことが必要との着想に至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、帝国の権力に対する抵抗行為と関連して、異なる太平洋地域における文化的ハイブリッド化、性的および言語的ハイブリッド性の複数地域における過程を調べることである。ポストコロニアルの立場の批評家エドワード・サイードによって発展させられたオリエンタリズムの概念に刺激を受け、研究代表者はこれらの問題を扱うためにパシフィズムという用語を使用することとした。本研究は、オリエンタリズムと対照させ、パシフィズムの潜在的な特質を決定することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究グループは、歴史家のマット・マツダと人類学者のエペリ・ハウオフアに倣い、人々や財の動きに関連させながら、「太平洋の世界」の「相互関係」に注目した。ヨーロッパにおいて旅行報告書、文献、植民地行政の書類に関する文献研究を行い、これに加えてミクロネシアでは研究代表者であるトーマス・シュヴァルトによるフィールドワークが行われた。また比較談話分析という方法により、太平洋に関する言説の構成のパターンを見つけることも企図とした。

4. 研究成果

このプロジェクトの主な成果は、26件の事例研究を含む『パシフィズム』の発行である。研究代表者であるThomas Shwarzと研究分担者の桑川万里夫が、ドイツのヨハネス・ゲルバートとともにこの書籍を共同編集した。研究協力者Arne Klawitterは、啓蒙運動の時代の南海に対するヨーロッパの熱意に関する研究を発表した。フリードリッヒ・

ヴィルヘルム・ザカリアエ、フリードリッヒ・ボウターヴェク、クリスチャン・ヤコブ・コンテッサなどの著者は、ポリネシアの発見に関する旅行報告を受けて、タヒチにおけるヨーロッパ人の暴力と性病の伝染を批判した。サンゴ礁は、太平洋島嶼民の自然な同盟として、ヨーロッパの侵略に対する抵抗力を備えていたということを示した。

研究代表者は、1781年にハインリッヒ・ツィーママンによって出版されたドイツの旅行記に基づいて書かれた、クックの第3回目の航海に関するスイスの作家、ルーカス・ハートマンによるポストコロニアル小説(「Bis ans Ende der Meere」、2009)を分析した。このポストコロニアルな視点によると、ハワイにおけるクックの死は、「野蛮な」ヨーロッパの侵攻に対する正当な地元の抵抗の結果であるとみなされる。

研究協力者Markus Jochの論文は、芸者お吉の物語に関する文学作品と映画を比較して、強制された日本の開国の問題を扱っている。ハリウッドの映画「野蛮人とゲイシャ」では、ジョン・ヒューストンがヨーロッパの男性性の「抵抗しにくい誘惑」を演じている一方で、山本有三のドラマとベルトルト・ブレヒトの対応(「下田のユディット」)はアメリカ帝国主義を批判している。

研究分担者桑川万里夫は、ハイブリッドな怪獣であるゴジラの日米映画を比較した。ゴジラは、第二次世界大戦でのヒロシマ・ナガサキにおける核兵器の使用、太平洋の核実験、2011年3月の災害に対する反応として見る事ができるとしている。

研究分担者豊田由貴夫は、先住民とヨーロッパの交易者や宣教師との交流のために植民地時代に発達したパプアニューギニアの混成言語であるトクピシンの社会文化的地位を調査した。トクピシンは今日のポピュラーカルチャーでは支配的だが、公用語としてはまだ英語が通用していることを明らかにした。

文献研究とは別に、研究代表者はミクロネシアで、1910-1911年にドイツの植民地支配に対するポンペイのソケス(Sokehs)の反乱についてのフィールドワークを行った。この調査の成果は、ポンペイの国家歴史保存庁に対する報告だけでなく、暴動の歴史と記念碑に関する教材の開発にもつながっている。本成果については、2017年2月のミクロネシア・セミナーの文献調査を行う際に、ザビエル高校(チューク)の学生たちにこのトピックに関する授業を行うという形でも還元した。しかしながら、本成果については、南海地域におけるドイツの植民地主義に関する現地の見解を考慮しながら、関連する情報のさらなる調査が必要である。

さらに、ポリネシアにおける性的なホスピタリティを特徴とする談話についての論文も著している。出発点は、既に1728年に出版されたフリードリッヒ・ベーレンスにより

ドイツ語で叙述され、あまり調べられていない巡航の叙事詩である。ペーレンスはラパヌイ（イースター島）でオランダの Roggeveen 探検隊の乗組員が受け取った明らかな性的接待の申し出について書いている。この未だ十分に調査されていない報告書は、ブーゲンビルがタヒチの美女に関するうわさ話を想像していた時期よりも 50 年以上前のものである。暴力的な出会いの文脈では、性的な接待の申し出は、潜在的に危険な外国の侵略者をなだめるものであった可能性があることを示している。

加えて、2018 年 2 月、ドイツ人作家ハンス・ベトゲのサモア小説「Satuila」(1912 年)を扱い、「南海の魔法」と題した論文を発表した。この物語は、文明を逃れてポリネシアの女性と 1 年ともに暮らしたヨーロッパ人の物語である。この論文の分析では、サモアの風景がモデルとして使われていること、そして物語が持つ南海の雰囲気に関心があてられた。この論文ではベトゲが示した熱帯のエキゾチズムの文学的な質について議論した。間テクニク的な参照といくつかの隠れた引用の仕方からは、ベトゲの作品には剽窃の疑いがあることがわかった。

その他、国内の会議や国際会議で、研究プロジェクトの中間結果と概要を発表した。これに続いて、2017 年度には比較文学研究における最近の文化的変遷についての図書に論文が掲載された。この出版は、オリエンタリズムからパシフィズムへの焦点の変遷を取り扱っている。それは、太平洋の連結を強調する必要性を指摘しながらも、南海研究から環太平洋の議論への批判的研究への拡大を求めるものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

Schwarz, Thomas:

„Samoanische Gastfreundschaft“. Zum Narrativ der sexuellen Xenophilie im Pazifik. In: *Limbus. Australian Yearbook of German Literary and Cultural Studies* 9, 2016, pp. 43-66. [ISSN 1869-1021], peer reviewed.

Schwarz, Thomas:

A Tragicomedy of the South Seas. Marc Buhl's and Christian Kracht's historical novels on the imperial project of August Engelhardt. In: *Study of the 19th Century Scholarship* 10, 2016, pp. 21-31. [ISSN 18827578], peer reviewed.

Schwarz, Thomas:

Hybridität. Ein begriffsgeschichtlicher Aufriss. In: *ZiG. Zeitschrift für interkulturelle Germanistik* 6/1, 2015, pp.

163-180 [ISSN 2198-0330], peer reviewed.

[学会発表](計 12 件)

Schwarz, Thomas:

„Zauber der Südsee“? - Hans Bethges exotistische Samoa-Novelle „Satuila“. Humboldt-Kolleg: West-Östliche Wahlverwandtschaft. Hans Bethge und die historischen und ästhetischen Konstellationen um 1900. Sydney, 2018.

Schwarz, Thomas:

Pazifikismus. Vorschläge für eine literaturgeschichtliche Revision. Conference: Herbsttagung der Japanischen Gesellschaft für Germanistik (JGG), 2017.

Schwarz, Thomas:

Der Pazifik in der deutschen Literatur. International Conference: Europa im Übergang. Interkulturelle Transferprozesse, internationale Deutungshorizonte. Tagung der Gesellschaft für interkulturelle Germanistik (Europa-Universität, Flensburg), 2017.

Schwarz, Thomas:

“Give me an atlas over a guidebook any day. There is no more poetic book in the world”. Imaginary Cartography of the Pacific in Judith Schalansky's “Atlas of Remote Islands”. Workshop: Deconstructing Insularity. The Pacific as a Sea of Islands. Tokyo, 2017).

Klawitter, Arne:

Lyrical representations of Otaheiti in 18th Century German Poetry. Workshop: Deconstructing Insularity. The Pacific as a Sea of Islands. Tokyo, 2017.

Schwarz, Thomas:

Die deutsche „Strafexpedition“ gegen die Insel Ponape (1910/11) und ihr Echo in der Gegenwartsliteratur. Group Section: Island Fictions and Metaphors in Contemporary Literature, 21st World Congress of the International Comparative Literature Association: The Many Languages of Comparative Literature. Vienna, 2016

Schwarz, Thomas:

Remembering the Sokehs Rebellion: Resistance against Colonial Power in Micronesia (1910/11). Workshop: „Pacificisms. The Pacific as a Space of Resistance and Hybridity“, 2016.

Toyoda, Yukio:
Introduction. Workshop: „Pacificisms. The Pacific as a Space of Resistance and Hybridity“, Tokyo 2016.

Schwarz, Thomas:
Orientalismus - Ozeanismus - Pazifikismus. Fokusverschiebungen aus postkolonialer Perspektive. International conference: Turns und kein Ende: Aktuelle Tendenzen in Germanistik und Komparatistik. Athens, 2015.

Schwarz, Thomas:
Sonnenbrüder. Körperkultur in der Südsee. 13th International IVG Conference on “Germanistik zwischen Tradition und Innovation, Shanghai, 2015.

Kumekawa, Mario:
Der ‚Pacific Rim‘ als radioaktive Zone. Zur Aktualität des Godzilla-Mythos. International Conference: Poetiken des Pazifiks. Japanisch-Deutsches Zentrum, Berlin, July 24 - July 25, 2015.

Schwarz, Thomas:
Die Barbaren des Pazifiks. Lukas Hartmanns Pazifik-Roman „Bis ans Ende der Meere“ (2009). International Conference: Poetiken des Pazifiks. Japanisch-Deutsches Zentrum, Berlin; July 24 - July 25, 2015.

〔図書〕(計 7 件)

Schwarz, Thomas, Kumekawa, Mario and Görbert Johannes (editors, copy-editing by Nana Badenbergl):
Pazifikismus. Poetiken des Stillen Ozeans. Würzburg: Königshausen & Neumann 2017, 567 pages (ISBN 978-3-8260-6169-1).

Schwarz, Thomas:
Orientalismus-Ozeanismus - Pazifikismus. Fokusverschiebungen aus postkolonialer Perspektive. In: Elke Sturm-Trigonakis et al. (ed.): Turns und kein Ende? Aktuelle Tendenzen in Germanistik und Komparatistik. Frankfurt/M: Lang 2017, pp. 143-156. [ISBN 978-3-631-73047-1]

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
Pacificisms. The Pacific as a Space of Resistance and Hybridity. Workshop at Rikkyo University on December 10, 2016:

<https://pacificisms.wordpress.com/> (last seen on April 26, 2018).

6. 研究組織

(1) 研究代表者

Thomas Schwarz (SCHWARZ, Thomas)
立教大学・文学部・助教
研究者番号：90744300

(2) 研究分担者

豊田 由貴夫 (TOYODA, Yukio)
立教大学・観光学部・教授
研究者番号：20197974

桑川 万里夫 (KUMEKAWA, Mario)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：00317504

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

Arne Klawitter (KLAWITTER, Arne)
Markus Joch (JOCH, Markus)